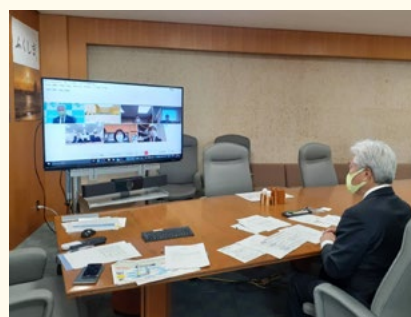


皆様のお声を伺い議論を深めて実現します



福島県の中継貯蔵施設にて



福島復興会議にオンラインで参加



セシウム汚染稲藁移管工事現場にて(栃木県)



経団連と政策対話



大町市美麻地区で林業家と



安曇野市明科で浸水した田んぼの稲刈りにて



松本市梓川の堤防の被害現場を視察



上高地線の橋梁の陥没現場にて



長野市鬼無里で中山間地の農家に伺う



安曇野市三郷のリンゴ農家に伺う



朝日村の農家の皆様と意見交換



農業に携わる若者と意見交換

【発行数318号】＊メルマガで様々なメッセージを発信中

※2021年12月3日時点の発行数

最新号はこちら
 むたい俊介HPメールマガジン

メルマガの申し込みは office@mutai-shunsuke.jp まで

あなたの声をお聞かせください。
政策や日本の将来を語り合しましょう。
ぜひ、お気軽にお立ち寄りください!

【自由民主党長野県第二選挙区支部】
 住所:長野県松本市白坂2-3-30 大永第3ビル101
 TEL:0263-33-0518 FAX:0263-33-0519
 mail:office@mutai-shunsuke.jp

【国会事務所】衆議院第一議員会館403号室
 住所:東京都千代田区永田町2-2-1
 TEL:03-3508-7334 FAX:03-3508-3334



衆議院議員

環境副大臣 兼 内閣府副大臣

務台

しゅん

すけ

むたい俊介 ニュース

山・里・人を元気に!

2022新年号 No.30



環境副大臣 兼 内閣府副大臣として 日々、業務に邁進しています

軽石の漂着の現場を視察

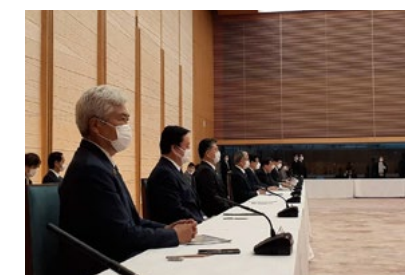
軽石の漂着の現場を視察し、玉城沖縄県知事をはじめ多くの関係者と意見交換を重ねしっかりと支援をお約束しました。



奄美大島で軽石の被害について伺う

官邸にて

副大臣として政府の様々な役割を担っています。どれも気が抜けない重責です。



官邸で新型コロナ対策会議に出席

被災地へ

東日本大震災の復興は私のライフワークでもあります。いまだに、震災の影響を受けている多くの皆様に寄り添う対応を行っています。



福島県大熊町の皆様と車座集会

ごあいさつ

10月31日に投開票の第49回衆議院総選挙を経て何とか4期目の当選を果たすことができました。

長野県内の他の選挙区で接戦を制して小選挙区勝利を果たした自民党候補者の健闘と支援頂いた皆様のお陰で、比例復活による議席が私のところにもたらされ貴重な一議席を確保することができました。与えられた議席の重みをかみしめ、環境副大臣兼内閣府副大臣の職務をしっかりと全うし、皆様の思いを確実に国政に届け、実現していく役割を果たしてまいります。

衆議院議員 務台 俊介



官邸にて副大臣全員で岸田総理とともに

日々の活動を
webで公開中

ホームページ
www.mutai-shunsuke.jp

公式
Twitter
 @mutaishunsuke

facebook
<https://www.facebook.com/mutai.shunsuke>

YouTube
 QRコードからアクセス または
 YouTube むたい俊介で検索
 チャンネル登録をクリック! ※要アカウント作成

皆様の声を国の法律に！ 6つの議員立法を実現しました

- 地域防災** 消防団を中核とした地域防災力充実強化に関する法律（平成25年）
- 山岳振興** 国民の祝日「山の日」の制定法案（平成26年）
- 労働環境整備** 建設工事従事者の安全及び健康の確保の推進に関する法律（平成28年）
- 自転車活用** 自転車活用推進法（平成28年）
- 地方再生** 地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律（令和元年）
- 中山間地対策** 過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法（新過疎法）（令和3年）

●皆様の声を法律にするまでの流れ

皆様の
お声を聴く

議連で
専門家とともに
議論を深める

各党と折衝して
法律の成立に
結び付ける

これからも身近な課題を
確実に解決に結び付ける
ため活動してまいります！
現在もいくつかの議員立法
を仕込んでいます。



現在までの主な役職を紹介します（2021年12月 現在）

〔政府〕

- 環境副大臣 兼 内閣府副大臣

〔党役職（自由民主党）〕

- 環境部会長代理
- 憲法改正推進本部 幹事
- 過疎対策特別委員会 事務局長
- 行政改革推進本部 防災体制見直しチーム 事務局長
- 雇用問題調査会 幹事
- 子どもの元気！農山漁村で育むPT 事務局長
- 国土・建設関係団体委員長
- 環境・温暖化対策調査会 事務局長代理
- 中央政治大学院 副学院長

〔その他〕

- 長野縣護国神社 総代会長
- 一般財団法人全国山の日協議会 副会長・理事

〔議員連盟〕

- 超党派「山の日」議員連盟 事務局長
- 自由民主党水道事業促進議員連盟 事務局長
- スキー議員連盟 事務局長
- 自由民主党木質バイオマス・竹資源活用議員連盟 事務局長
- 最低賃金一元化推進議員連盟 事務局長
- 茅葺き文化伝承議員連盟 事務局長
- 森のようちえん振興議員連盟 事務局長
- 自由民主党ウィンタースポーツ&リゾート議員連盟 事務局長代理
- 自転車活用推進議員連盟 事務局次長兼自転車活用PT座長代理
- 捕獲鳥獣食肉利活用推進議員連盟（ジビエ議連） 事務局次長
- 自由民主党消防議員連盟 事務局次長
- 自由民主党再生可能エネルギー普及拡大議員連盟 副幹事長
- ワーケーション推進議員連盟副幹事長

むたい俊介プロフィール

昭和31年（1956年）安曇野市（旧三郷村）生まれ、大町市・旧豊科町で育つ

昭和50年 松本深志高校卒業

昭和55年 東京大学法学部卒業後、旧自治省入省、地方分権推進委員会参事官、総務省消防庁防災課長、総務省調整課長、総務省大臣官房参事官、自治体国際化協会ロンドン事務所長などを歴任

平成21年 衆議院議員選挙に初挑戦

平成22年 神奈川大学法学部自治行政学科教授を務める

平成24年 第46回衆議院議員選挙で長野県第二区にて初当選

平成28年 8月から平成29年3月

内閣府大臣政務官兼復興大臣政務官

令和3年 10月から環境副大臣 兼 内閣府副大臣

令和3年 第49回衆議院議員選挙で4回目の当選



福島県の正副議長を副大臣室にお迎えする

Message メッセージ

自民党長野県第二選挙区支部長
衆議院議員

務台 俊介

沖縄の漂着軽石を視察

令和3年10月31日に投開票の第49回衆議院総選挙を経て何とか4期目の当選を果たすことができました。当初目指した小選挙区の当選は果たせませんでしたが、長野県内の他の選挙区で接戦を制して小選挙区勝利を果たした自民党候補者の健闘のお陰で、比例復活による議席が私のところにもたらされ貴重な一議席を確保することができました。

そのような中、選挙後の人事で引き続き環境省副大臣、内閣府副大臣の立場を担当することが許されました。11月11日に皇居で天皇陛下から親任状を賜りました。議席を失えば当然失うはずだった副大臣の立場を保全し、重大な局面にある環境政策に重責を果たすことができることになりました。

そういう観点から、与えられた職務には全身全霊の対応をしたいとの気持ちが満ちておりますが、選挙明けの11月2日には環境省に玉城沖縄県知事の訪問を受けました。知事の要請は、海底火山の影響で海洋を漂っている軽石が沖縄県の海岸に打ち寄せ困っていることから環境省をはじめとして政府の支援を得たいというものでした。私からは、港湾、漁港以外の海岸対応は環境省の所管であり沖縄県の要請には全面的に対応すること、その為に補正予算を含め財政支援をしっかりとやることを約束しました。そして、できるだけ早い段階で沖縄県を訪問し、現場を視察させて頂きたいとお伝えしました。

それから2週間を経て、11日17日に日帰りではありましたが、環境省の担当者と共に沖縄県庁と軽石漂着の現場の恩納村のビーチを訪問しました。沖縄県では知事の下に対策本部を設置し体系だった対応策を構築しておられました。玉城知事との会談の後、長浜恩納村長を訪問し、漂着軽石の仮集積場、軽石が漂着しているビーチをご案内頂きました。海岸線が非常に長いことから軽石を除去することは人海戦術に頼らざるを得ないこと、その作業はある程度の期間を要するであろうことを実感しました。



▲沖縄県に漂着した軽石の説明を受ける

港湾や漁港は業者が軽石除去に対応していますが、自然海岸はホテル関係者や地元の皆様がボランティアで対応されているとのこと。一方で、ホテルの支配人からは、軽石漂着のニュースが全国に流れた結果、観光客や修学旅行のキャンセルが相次いでいるとのことをお話を伺いました。

その話を伺い、修学旅行の子どもたちに軽石ボランティアに従事してもらうことはできないものかとのアイデアが頭に浮かびました。重油漂着と異なり、今回の軽石は健康に問題が生じる懸念が無いとの化学的分析結果が明らかになっています。そうであれば、沖縄県が困っている海岸を美しくする活動に子どもたちが従事することは、教育的効果が絶大だと思いました。海底火山活動による軽石漂着という地球の営みが地域に対して影響を及ぼしている事態に巡りあったこの奇遇をチャンスととらえ、それに自分自身がどのように対応したかということはそれぞれの子どもにとって一生の思い出になるはずです。

環境教育という観点で環境省も関与可能だと考えますが、修学旅行という観点では文科省がメインで関わってきます。地元の意向を確認しながら、省庁間連携の中で「軽石ボランティア修学旅行」構想を練り上げて参りたいと思っています。

（むたい俊介メールマガジン第318号より）